

「私にできることから社会を明るく」

小田原市立千代中学校

三年 牧島 遼弥

「社会を明るくする運動」という言葉を聞いたとき、僕は最初、名前だけでは何をするかよく分かりませんでした。ニュースで事故や事件の話を知ると、どうしてそんなことをするのだろう、と悲しい気持ちになることがあります。でも、この運動は単に犯罪や非行をなくすためだけのものではなく、罪を犯した人がやり直せる社会をみんなで作っていく取り組みだと知って、とても大切なことだと感じました。

ニュースを見ると、事件を起こした人たちにはそれぞれの事情や苦しさがあることに気づきます。家庭で孤独を感じていたり、学校や職場で悩みを抱えていたりして、誰にも相

談できずに追い詰められてしまう場合もあるのだと思います。もちろん、悪いことをしたら責任を取らなければいけません。でも「その人がもう一度やり直せるように支えること」も大切だと学びました。これは、ただ許すことではなく、次に同じ過ちを繰り返さないためのサポートだと思います。

僕は身近な生活の中でも、同じようなことがあると感じました。学校で友達とちょっとした言い合いになったとき、すぐに怒って突き放してしまうのは簡単です。でも、お互いの気持ちを話し合って仲直りできたとき、心がすごく軽くなることがあります。僕はそのとき、「相手のことを思いやることや支えることが社会を少しずつ明るくすることにつながるのだ」と気づきました。小さなことかもしれないませんが、この経験は僕にとって大きな学びでした。

さらに、この運動について調べて考えていくうちに、自分ができることも少しずつ見え

てきました。僕は大きなことができませんが、困っている友達に声をかけたり、挨拶をきちんとしたりするだけでも、周りの雰囲気明るくすることができると思います。実際、通学途中で地域の方に「おはよう」と声をかけられたとき、朝から気分が明るくなったことがあります。自分も同じように、誰かの気持ちを少しでも明るくできたらいいな、と強く思いました。

また、犯罪や非行に関わった人がやり直す「更生」のを知り、自分も誰かの支えになれることがあるのではないかと考えました。例えば、学校で悩んでいる友達に話を聞いてあげることや、落ち込んでいる人に笑顔で声をかけることも立派な支援だと思います。自分の行動次第で、周りの人の気持ちを少しずつ明るくできるということに気づき、行動の大切さを実感しました。

僕が特に考えたのは、「社会を明るくする」という特別な人だけがするものではなく、

日々の生活で一人ひとりが少しずつ心がけることでも成り立つということです。挨拶や笑顔、困っている人への思いやり：そうした小さなことが積み重なって、明るく安心できる社会を作る力になるのだと思います。

僕はこれから、自分の言葉や行動にもっと気をつけて、周りの人を大切にしていきたいです。小さなことでも毎日意識して行動することで、周りの人の気持ちが明るくなると信じています。

「社会を明るくする運動」は特別な誰かがやることではなく、僕たち一人ひとりができることの積み重ねだと思えます。これからも自分にできることを考え、行動し続けることで、少しずつでも社会を明るくしていきたいです。そして、誰もが安心して笑顔で暮らせる社会を作る一員になりたいと思いました。